

次期「杜の都環境プラン」における定量目標について（案）

施策分野	現計画における定量目標			課題と今後の方向性
	項目	概要	把握の頻度	
脱炭素 都市づくり	温室効果ガス排出量 2020年度における排出量を2010年度比で0.8%以上削減	・環境省マニュアルに基づき、各種統計資料等を用いて推計	毎年	・地球温暖化対策推進計画において検討
自然共生 都市づくり	みどりの総量 緑被率について、現在の水準を維持・向上	・航空写真により、市域における緑被率（樹林地や草地、農地等に覆われた土地の割合）を把握	1回/5年	・毎年の把握は困難だが、自然環境の保全や市街地の緑化に係る量的な指標として有効であることから、引き続き、目標とすることを検討
	猛禽類の生息環境 生態系の頂点に位置する猛禽類の生息環境を維持・向上	・植生図をもとに、オオタカとサシバの生息に適した地域の面積を把握	1回/5年	・里地里山の質的状況を把握するために目標を設定したものの、植生図をもとに生息適地面積を推定しているため、毎年度の把握が困難であり、かつ、量的な指標としての意味合いが強く、上記の目標と重複感がある ・次期計画においては、毎年の把握が可能であり、かつ、里地里山の質的状況（維持管理の状況）を直接的に把握できる指標を検討 （例：市や活動団体等による森林の維持管理面積）
	身近な生きものの認識度 市民の認識度を現在よりも向上	・アンケート調査により、カッコウやトンボなど9種の身近な生きものについて、過去1年間に見た・聞いたと回答する市民の割合を把握 ・アンケートは中学1年生とその家族（計3,500人程度）を対象	1回/5年	・市民の自然や生きものへの興味・関心に関する指標であるとともに、身近な生きものの生息環境の保全に関する指標として有効であることから、引き続き、目標とすることを検討 ただし、調査頻度については増やす方向で検討
資源循環 都市づくり	ごみの総量 2020年度に360,000t以下	・家庭や事業所から出るごみの総量を把握	毎年	・一般廃棄物処理基本計画において検討
	リサイクル率 2020年度に35%以上	・発生したごみのうちリサイクルされた割合を把握	毎年	
	燃やすごみの量 2020年度に305,000t以下	・ごみ総量のうち焼却処理されるごみの量を把握	毎年	
快適環境 都市づくり	環境基準の達成状況 大気や水、土壌などに関する環境基準（二酸化窒素についてはゾーン下限値）について、非達成の場合にはできる限り速やかに達成し、達成している場合にはより良好な状態を維持	・大気や騒音、水質等の環境調査により、達成状況を把握	毎年	・生活環境の保全に係る客観的な指標として有効であることから、引き続き、目標とすることを検討 ただし、「より良好な状態」とはどのような状態を示すのか不明瞭であるため、整理が必要
	環境に関する満足度 市民の「環境に関する満足度」について「満足している」と回答する人の割合を現在よりも向上	・アンケート調査により、空気のきれいさや、まちの静けさなどの8項目について、満足している市民の割合を把握 ・アンケートは無作為抽出による市民3,000人を対象	1回/5年	・市民の主観的な環境の心地よさや快適性を示す指標として有効であることから、引き続き、目標とすることを検討 ただし、調査頻度については増やす方向で検討
行動できる 人づくり	日常生活における環境配慮行動 日常生活における環境配慮行動について「常に行っている」と回答する人の割合を現在よりも向上	・アンケート調査により、省エネやごみの分別などの19項目の環境配慮行動について、実践している市民の割合を把握 ・アンケートは無作為抽出による市民3,000人を対象	1回/5年	・環境配慮行動の浸透状況を把握する指標として有効であることから、引き続き、目標とすることを検討 ただし、調査頻度については増やす方向で検討 ・また、次期計画においては、行動できる人づくりを重視する点を踏まえ、行動につながる機会や場の提供に関する目標を追加することを検討 （例：環境に関する講座や体験イベント等への参加人数、たまきさんサロン来館者数）